

母校創立百周年に寄せて

北原 まゆみ（旧姓久保田）

伊那市長谷在住

四季折々の移ろいの中で 新緑の若葉が 陽の光に輝いて、心躍るこちがします。一年のうちで、いちばん過ごし易い季節でしょうか。道端の名も知らぬ草にさえ 声をかけたいうれしさをおぼえます。

齢六十半ばとなりまして この季節のときめきは、女学生のころのそれとあまり変わっていないような気がいたします。（！？）

伊那弥生ヶ丘高校が 創立百周年を迎えられることは、卒業生の一人として 本当に喜ばしく また、誇りにできることと嬉しく思っております。

記念事業につきましても 校長先生をはじめ、同窓会役員の皆様方が 並々ならぬご苦勞と熱意を持って、事に当られていらっしゃる ご様子うかがえ、このことも母校の 次の百年を支える 素晴らしい礎になるのではと 心強く感じて ご努力に頭の下がるおもいがしております。

何年か前に、年若い友人が 「葉っぱのフレディ レオ・パスカーリア作」という題名の絵本を貸してくれました。

“大きな一本の木に 春に芽を出した若葉が、仲間の葉っぱ達と成長し小鳥を休ませ、木陰を作り人々を暑い日差しから守り、雨や風 月の光やそよ風を浴びながら、やがて美しく紅葉して木の根元におり、静かに眠りにつく

冬が終わると葉っぱは、土や水と混ざって 木を育てる力になり、根や木の中の目に見えないところで 新しい葉っぱを生み出そうと準備をし、大自然の中で命は終わることなく変化し続ける。”といった内容だったとおもいます。

私達も 弥生ヶ丘の木 に生まれて育てられ、やがて土に還っていきますが、散りゆく葉っぱの一葉として 母校にご恩返しさせていただけたら嬉しく思います。

我が家では、親子二代に亘り 弥生ヶ丘高校にお世話になりましたが、娘が通学する頃は、バスの本数も少なく 待ち時間をもてあまし、度々車で迎えにまいりました。そのような経験から、落ち着いて自習ができるような場所があれば 在校生の皆様の放課後の拠り所になるのではと 感じているところでございます。

記念事業の為の募金活動につきましても、同窓生の皆様のお力添えをいただきながら 精一杯進めてまいりたいと存じます。